

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス	宮崎キャンパス	開設学科	管理栄養学科	実務経験 教員担当	
科目名称 [英語名称]	管理栄養士演習Ⅰ [Seminar for Nutritional ManagementsⅠ]			アクティブ ラーニング	○		
科目コード	306100	授業形態	演習	単位数	1	配当学年	3年次
教員氏名	木村 志緒			学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP1(2) DP3(3)		
授業概要	<p>(1)管理栄養士演習Ⅰの15回分と管理栄養士演習Ⅱの3回分を木村が担当します。 主なテーマは、管理栄養士演習Ⅰが社会・環境と健康分野、管理栄養士演習Ⅱが食事摂取基準の予定です。 (2)木村が担当する18回分のうち、11回分の授業形式は、アクティブラーニングのひとつである“反転授業”(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形式)とします。よって授業時間内はグループワークによる学習が中心となります。グループワークを円滑に進めるためには、前もって知識習得を進めておく必要がありますので、授業外において各自あるいはグループ内での予習を行っておいください。 【知識・理解を応用し活用する能力】【コミュニケーションスキル】</p>						
関連する科目	<p>事前に、公衆衛生学、健康管理概論を受講しておくことが望ましい。 履修後は、管理栄養士演習Ⅲを受講することが望ましい。</p>						
授業の進め方と方法	<p>【2～6回目の進め方】 ①授業の前半:教員の解説を聴く ②授業の中盤:当日配布の問題文について誤っている語句を適切な語句に変換する作業をグループワークにより進める。グループ内で意見が分かれたときなどは他のグループや教員に質問するなどして回答を導き出し、ユニバで提出する。 ③授業の後半:翌週分の演習問題に取り組む 【7～11回目以降の進め方】 ①授業の前半:予めユニバで送信した回答についてグループワークにより確認し合う。</p>						
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション :授業概要、授業の進め方、授業計画、授業の到達目標、時間外の学習、評価方法等について理解する。 また、グループワークで当日問題に取り組む。さらに各自、次週分の演習問題に取り組む。 2回目 社会分野中心の20問(A社) 3回目 社会分野中心の20問(B社) 4回目 社会分野中心の20問(C社) 5回目 社会分野中心の20問(D社) 6回目 社会分野中心の20問(E社) 2～6回目:教員による解説を聴く+当日配布問題+次週分の演習問題の流れで学習する 7回目 社会分野中心の20問(F社) 8回目 社会分野中心の20問(G社) 9回目 社会分野中心の20問(H社) 10回目 社会分野中心の20問(I社) 11回目 社会分野中心の20問(J社) 7～11回目:グループ内回答統一→教員による採点→当日配布問題→次週分の演習問題の流れで学習する 12回目 産業保健分野の30問 13回目 高齢者保健分野の30問 14回目 学校保健分野の30問 15回目 食事摂取基準 16回目 食事摂取基準(設定栄養素)の30問 17回目 食事摂取基準(妊産婦・授乳婦、評価への活用)の30問 12～17回目:教員による説明を聴く→グループ内回答統一→教員による採点→当日配布問題→次週分の演習問題の流れで学習する 18回目 まとめ 50問の問題を提示する</p>						
授業の到達目標	<p>(1)管理栄養士国家試験に合格できる力に付ける【知識・理解を応用し活用する能力】 (2)社会に出たときに管理栄養士として他者と協働する力を身に付ける【コミュニケーションスキル】</p>						
授業時間外の学修	<p>【予習】演習問題に取り組み、自分自身の理解できていないところを明らかにしたり、出題事項の周辺の知識をまとめたりする(約1時間) 【復習】問題文を1問1答として誤りを正しい語句に直したり、関連する事項をノートに整理したりするなどしておく(約1時間)</p>						
課題に対するフィードバック	問題解説を行ったり、正答率の低い問題を抽出し1問1答形式に変換した問題として提示したりする	評価方法	以下の項目及び割合に基づいて相対的に評価する (1)社会分野中心の問題の正答率:約5割 (2)当日配布問題の正答率:約3割 (3)まとめテストの点:約2割				
テキスト	・必要に応じて資料を配布する						
参考書							
備考							